



ひと昔前までは、地域の人が気軽に集い、おしゃべりできる場所がありました。お年寄りたちは、誰が言うこともなくそこに集い、お茶を飲みながら語り合い、ときには愚痴を言ったり、学校帰りの子供たちに声をかけたり、そこは地域の社交場でもあり、情報交換、文化伝承の場であったり、また明日への生きる源だったりました。

時代は過ぎ、核家族化などに伴い地域のつながりはだいに薄れ、かつての縁側のようなみんなの居場所がなくなりつつあります。しかし、3人に1人が高齢者という今こそ、みんなが気軽に集える居場所づくり、「地域の縁側」が必要です。今後、地域での居場所づくりをみなさんと一緒にすすめていきたいと思います。

## 地域の縁側 みーつけた!

問合せ先 地域包括支援センター ☎2077

このほかにも地域で交流している場所を知っている、または「居場所づくり」に興味のある方は地域包括支援センターにご連絡ください。

### 教えてください地域の縁側

事前申込み制で参加資格に制限はありません。笑顔の絶えないサロンに一度足を運んでみてはいかがでしょうか。  
問合せ先 社会福祉協議会 ☎3294



健康体操、合唱やダンスなどを参加者全員で行います。市内各地から参加者が訪れるため、「久しぶりにお会いした」などの声があちらこちらで聞かれます。

### 下田市にある「地域の縁側」

福祉会館ふれあいサロン  
毎年10月から翌年2月まで、月1回、総合福祉会館で行われています。

南伊豆の石材生産の開始時期は不明ですが、江戸後期の寛政年間には、下田市数根や大沢を含む南伊豆一帯で広く切石生産が行われていました。特に幕末から明治期にかけて最も盛んに採掘されたとみられ、安政年間には1年に30万

元需要だけでなく、江戸東京方面に船で運ばれ、建築土木資材として多用されました。  
**切石生産の歴史**  
南伊豆の石材生産の開始時期は不明ですが、江戸後期の寛政年間には、下田市数根や大沢を含む南伊豆一帯で広く切石生産が行われていました。特に幕末から明治期にかけて最も盛んに採掘されたとみられ、安政年間には1年に30万

南伊豆地方では、江戸時代から大正末頃にかけて伊豆石の採掘が盛んに行われていました。

シリーズ伝建調査 Vol. 4  
下田の町並み特徴づける  
伊豆石  
問合せ先 生涯学習課 ☎5055



伊豆石が特徴的な旧下田町の町並み

今日、南伊豆地方に伝統的な石材生産業は伝わっていませんが、生産地の膝元として、下田旧市街地の随所に伊豆石の住宅や倉・塀などが残されており、なまこ壁とともに下田の町を特徴づけています。

本もの下田産石材が江戸に入荷した記録があります。続く明治時代には都市建設や鉄道造船などの造営に多量な石材需要があり、南伊豆地方はその需要に応え、多くの石丁場が営まれました。  
下田町では、町民のほとんどが関わる花形産業であったと伝えられる石材業ですが、海上運輸の変容とコンクリートの普及、大谷石の出現等によって明治末頃から衰退し、昭和初期には生産を停止したといえます。

## 市の発展や地域経済の振興にご尽力された5氏を表彰

# 祝 下田市表彰・技能功労者表彰

市では、市の発展や文化の向上、産業や社会福祉の分野で、功績のあった方に対し、下田市表彰・下田市技能功労者表彰を行っています。

表彰を受けられた皆様の功績と功労をたたえここに紹介します。

問合せ先 総務課秘書広報係 ☎2211

## 下田市表彰 有功表彰 - 地方自治功労 -



つちや ひとし  
**土屋 齊さん**  
(70歳) 須原

平成9年4月から平成25年3月までの16年間の永きにわたり、須原公民館長として、公民館活動の活性化に貢献されました。



おざわ いちろう  
**小澤市朗さん**  
(80歳) 須崎

平成9年4月から平成25年2月までの15年の永きにわたり、交通指導員として地域住民の交通安全指導に貢献されました。

## 下田市技能功労者表彰



ほそだ まさみ  
**細田正美さん**  
(61歳)

左官 経験44年 箕作  
細田左官



つちや かずあき  
**土屋和秋さん**  
(65歳)

左官 経験51年 椎原  
土屋左官



やまだ おさむ  
**山田収さん**  
(69歳)

菓子製造 経験54年 横川  
山口黒船

